

教員研修会 シンポジウム：教育現場における心のケア

1. 司会のことば

奥宮 敏可*

まず、今回のシンポジウムの企画意図をご理解頂くために、シンポジウムタイトル「教育現場における心のケア」に至った経緯について説明させて頂くこととする。昨年、第7回日本臨床検査学教育学会学術大会教員研修会において「これからの学生教育の課題」と題して3名の演者によるシンポジウムを開催した。その時の演者の一人が今回のシンポジストの一人でもあり、また私と共に司会進行を務めて頂いた金子 宏先生(星ヶ丘マタニティ病院 副院長)である。その際金子先生の発表タイトルは「学生生活ケアー特にメンタル面についてー」であった。発表後の質疑応答では金子先生への質問・コメントが集中し、更にはシンポジウム終了後には、金子先生への様々な相談でフロアに質問希望者の列ができたほどであった。

そこで、当時委員長であった永尾暢夫先生(前神戸常盤大学)のリーダーシップのもと研修委員会は、第8回学術大会の教員研修会では、「心のケア」に焦点を絞り、シンポジストの人選も金子宏先生にお願いすることとした。そして、当時、研修会委員の一人であった奥宮が精神医学は全くの素人であるが、一教員の代表として金子先生とともに司会進行役を務めることとなった。

今回のシンポジウムでは、最初の演者として小林俊三先生(神戸大学保健管理センター 准教授)には「教員を中心として」と題して、教員を対象とした心のケアにまつわる諸問題についてご発表頂いた。第2の演者として岡田暁宜先生(南山大学人文学部心理人間学科 教授)には「学生を中心に」と題して、学生を対象とした心のケアについてご発表頂いた。そして、最後の演者として金子 宏先生には「総括的立場」と題して、文字通りこれまでの発表内容を総括して頂き、本シンポジウムのまとめをして頂いた。総合討論では、様々な事案について議論がなされ、フロアからも極めて具体的で辛辣な問題も提示された。特に印象深かったのは、精神面で問題を抱える学生の家族環境に大きな問題が存在する場合があるという点である。これは、どこまで教員がその問題に踏み込んでよいのか判断が極めて難しいケースだと痛感した。メンタルケアの段階には、一次予防(ストレスを予防して疾病の発症を事前に抑える)、二次予防(疾病の早期発見と対応)、三次予防(疾病の治療と再発予防のためのフォローアップ)があるが、今回のシンポジストの先生方は、特に二次予防が極めて重要であることを強調された。

*熊本大学大学院生命科学研究部 医療技術科学講座 生体情報解析学分野 okumiyat@kumamoto-u.ac.jp